

「最悪」を想定する

今回の大震災では、今まで「安全」だと言われていた場所に津波の被害があった。どれだけハード面を整備しても、その想定を超える災害は起こりうる。最後に頼れるのは自分自身であり、自分が助からなければ周囲も助けられない。「災害」という不測の事態を生きのびるためには、わたしたち一人ひとりが日ごろから「自らが死なないすべ」を身に付けておく必要がある。

「想定外」を乗り越える

「福島は地震が来ないって言われていたから...」。巻頭インタビュの坂本さんは、そう言っている。坂本さんだけでなく、今回の大震災では、地震の専門家ですら「信じられない」と言葉が失う被害が、次々と東日本を襲いました。

「まさか」の出来事だったかもしれない。しかしその「まさか」で大切な人を失ったとき、あなたは「想定外」だったからと納得できるでしょうか。自然に恵まれた福智町には、雄大な福智山や、彦山川や中元寺川など多くの川があります。また「福智山断層」という約19kmにわたる活断層が町を横断しており、地震が発生した場合、マグニチュード7程度の震災が起

こると予測されています。

「福智山断層が今回の地震に誘発されたら?」「集中豪雨で福智山が土砂崩れを起こしたら?」「彦山川が決壊したら?」...今まで起きたことのない災害の想定を、あなたは「まさか」と笑うかもしれませんが、その「まさか」が起きたのが今回の大震災。

突然起こる不測の災害で死なないためには、一人ひとりが「災害対応力」を高める必要があります。災害が起きる前の今だからこそ、被害を出さないよう行動することも可能。いつかやって来るかもしれない「最悪のシナリオ」を想定すれば、「最善の防災対策」が見えてくるはずです。

Interview 情報提供にご協力を 福智町消防団 丸山 米太郎 団長(伊方)

福 智町消防団は現在367人の団員で構成され、地域ごとのマニュアルを作成し、災害対応にあたっています。土砂崩れなどの災害では、前兆があるものがあります。斜面から水がわき出てくる、小石が落下するなどの異変を感じたら、すぐに連絡をください。みなさんに情報提供をしていただくことで、よりきめ細かな対応が可能となり、災害を未然に防ぐことにもつながりま

まるやま・よねたろう ●消防団活動を始めて34年目。H20年福智町消防団副団長、H22年から団長を務める。



全国瞬時警報システム J-ALERT ジェイ・アラート

福智町では、今年4月1日から「全国瞬時警報システム ジェイ・アラート」の運用を開始しています。このシステムは、対処に時間的余裕のない緊急情報を、総務省消防庁から人工衛星を経由して直接受信し、その後、ただちに防災行政無線や戸別受信機で自動放送。国が全国一斉に整備を進めています。震度4以上の緊急地震速報や弾道ミサイル情報などの緊急情報を、警報音と音声でお伝えします。

ジェイ・アラートの試験放送を行います

本年度中に試験放送(大音量の地震速報)を行います。日時が決まり次第、広報紙や防災無線でお知らせいたします。



災害を伝え、防災を学ぶ。

この町で安心して暮らしていくために――



▶ 河川氾濫・土砂災害時の町内の危険箇所や、避難所の情報が示された「福智町防災ハザードマップ」をご存じですか? 町全域のものと中学校区ごとのものがあり、福智町公式サイトでご覧になれます。 福智町役場総務課 ☎ 22-0555

まとめ ● 家族で防災会議を

「ここが家。避難する時はこちを通って、川の近くは避けてね...」。6月19日、細川勲さんの自宅には3人の孫が集まり、大雨時のシミュレーションが行われていました。上弁城に住む細川さん。2年前に人的被害があった集中豪雨で裏山が崩れ、家の屋根まで目と鼻の先というところまで土砂が流れてきたといいます。「何十年もここで暮らしてきましたが、土砂災害なんて考えもしなくて...」と話す妻の美雪さんですが、災害後は意識がガラリと変わりました。大雨時には必ず避難し、危険箇所も入念にチェック、孫たちへの防災教育にも力が入ります。「命にかかわることですからね」と美雪さん。こうした地道な備えの積み重ねが、いざという時に命を救う「災害対応力」につながるのだと感じました。

緊急時に有効な防災メールの登録を!

「知る」と「知らない」では「助かる」と「助からない」の差 防災メールまもるくん

ご自身が設定した地域に地震情報、台風情報、注意報・警報などの気象情報が発表された時に、登録メールアドレス宛にメールが配信されます。
<http://www.bousaimobile.pref.fukuoka.lg.jp>



※携帯電話で読み取りアクセスしてください。

